

2 課

1月11日

契約上の愛



安息日午後 1月4日

暗唱聖句

イエスは彼に答えて言われた、「もしだれでもわたしを愛するならば、わたしの言葉を守るであろう。そして、わたしの父はその人を愛し、また、わたしたちはその人のところに行って、その人と一緒に住むであろう。」(ヨハネ 14:23、口語訳)。

イエスはこう答えて言われた。「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。」(ヨハネ 14:23、新共同訳)

今週の聖句

Ⅱペトロ 3:9、申命記 7:6~9、ローマ 11:22、Ⅰヨハネ 4:7~20、
ヨハネ 15:12、Ⅰヨハネ 3:16

今週のテーマ

多くの人は、ギリシア語の「アガペー」が神に特有の愛を指し、「フィレオー」などの愛をあらわす言葉は、「アガペー」よりもずっと不完全な、別の種類の愛を指すと教えられてきました。また、「アガペー」は一方的な愛、与えるだけで決して受け取ることのない愛、人間の応答とはまったく無関係な愛を指すと主張する人たちもいます。

しかし、聖書全体を通じて神の愛を注意深く研究してみると、このような考えは、一般的ではあるものの、間違いであることがわかります。第一に、「アガペー」というギリシア語は、神の愛だけでなく、人間の愛、時には誤った方向に向けられる人間の愛も指しています(Ⅱテモ4:10)。第二に、聖書全体を通じて、「アガペー」以外の多くの用語が神の愛を指しています。例えば、イエスは「父御自身が、あなたがたを**愛して**おられるのである。あなたがたが、わたしを**愛し**……たからである」(ヨハ16:27)と教えられました。ここでは、ギリシア語の「フィレオー」が、人間の愛だけでなく、人間に対する神の愛についても使われています。

聖書はまた、神の愛は一方的なものではなく、深い関係性を持っており、人間がその愛を神や他者に向けるか否かが神に大きな違いをもたらすとも教えています。

聖書は明白です——神はすべての人を愛しておられます。聖書の中で最も有名なヨハネ3:16は、この真理を明言しています。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」

問1 詩編33:5、145:9を読んでください。これらの聖句は、神の慈愛、思いやり、^{あわ}憐れみがどれほど広範囲に及んでいるかについて、どんなことを教えていますか。

自分は愛されていないとか、神はほかの人は愛しても自分のことは愛しておられないと考える人がいるかもしれません。しかし、聖書は一貫して、**すべての人が神に愛されていると明言しています**。神が愛しておられない人はいません。そして、神はすべての人を愛しておられるがゆえに、すべての人が救われることも望んでおられるのです。

問2 IIペトロ3:9、Iテモテ2:4、エゼキエル33:11を読んでください。これらの聖句は、すべての人を救いたいという神の願いについて、どんなことを教えていますか。

ヨハネ3:16のあとには、次の聖句が続いています。「神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである」(ヨハ3:17)。もしそれが神のご一存で決まることなら、すべての人が神の愛を受け入れて救われるでしょう。しかし、主はご自分の愛を誰にも強要なさいません。受け入れるか拒絶するかは、人の自由なのです。

そして、それを拒絶する人がいても、神は彼らを愛することをおやめになりません。エレミヤ31:3で、神はご自分の民にこう宣言しておられます。「わたしは、とこしえの愛をもってあなたを愛し／変わることなく慈しみを注ぐ」。聖書はほかの箇所でも、神の愛が永遠に続くこと繰り返し教えています(例えば、詩編136編参照)。神の愛は尽きることなく、永遠に続きます。愛することをやめたいと感じることの多い私たちには、理解するのは難しいことです。

しかし、もし私たちがその愛の現実を個人的に体験できたなら、私たちの生き方や他人への接し方は、どれほど違ったものになるのでしょうか。

聖書はしばしば、私たちと神との特別な愛の関係を、家族や血縁関係の比喩、特に夫婦の愛や、子どもに対する良き母の愛の比喩を用いて描いています。このような比喩は、特に神と契約の民との特別な関係を描くために用いられます。これは契約上の愛の関係であり、それには、ご自分の民に対する神の愛だけでなく、人々がこの愛を受け入れ、その見返りとして神（とお互いの人々）を愛するようになってほしいという期待も含まれています。

問3 申命記7:6~9を読んでください。これらの聖句は、神が契約を結ばれることと神の慈愛との関係について、どんなことを教えていますか。

申命記7:9は、神が契約の民に対して抱いておられる特別な愛について述べており、その関係は、彼らが忠実であり続けるかどうかにか部分的に左右されます。神の愛は無条件ですが、ご自分の民との契約関係は条件つきです。

申命記7:9で「慈しみ」または「恵み」と訳されているヘブライ語の「ヘセッド」は、神の愛（など）の契約的側面を例示しており、神の憐れみ、善意、愛の偉大さをあらわすためによく用いられます。とりわけこの言葉は、既存の双方向の愛情関係の中で、相手に対する慈愛、つまり揺るぎない愛を指します。また、「ヘセッド」によってそのような関係が始まるのは、相手がこのような慈愛を返してくれることを期待してのことです。

神の「ヘセッド」は、神の慈愛が極めて信頼でき、揺るぎなく、永続的であることを示しています。しかし同時に、「ヘセッド」の恩恵を受けるには条件があり、神の民が従順であり、その関係を維持しようとする意志が必要です（サム下22:26、王上8:23、詩編25:10、詩編32:10、代下6:14参照）。

神の揺るぎない愛は、あらゆる愛の基礎であり、私たちはその愛に匹敵することができません。神は私たちが喜んで造られただけでなく、キリストによって私たちのためにご自身を喜んで与えてくださいました。「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」（ヨハ15:13）。疑いもなく、神の愛は、主が「へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順で」（フィリ2:8）あられたときに最大限にあらわされました。

神の愛が現実にあることをいつも頭の中にとどめておくには、どんな方法がありますか。そうすることは、なぜ大切なのですか。

神は、ご自分との親密な愛の関係に入るよう、すべての人を呼び、招かれます（マタ22:1～14参照）。この呼びかけに適切に応じることの中には、神を愛し、隣人を愛しなさいという神の命令に従うことが含まれています（同22:37～39参照）。神とのこの関係の恩恵を享受できるかどうかは、神の愛を受け入れるか拒絶するかを自由に決めることにかかっているのです。

問4 ホセア9:15、エレミヤ16:5、ローマ11:22、ユダ21を読んでください。これらの聖句は、神の愛の恩恵が拒絶されうるか（さらには、はく奪されうるか）どうかについて、どんなことを教えていますか。

これらやそのほかの聖句において、神との愛の関係の恩恵を享受することは、神の愛に対する人間の応答が条件であると、繰り返し表現されています。しかし私たちは、神が誰かを愛することを実際におやめになるなどと誤って考えるべきではありません。これまで見てきたように、神の愛は永遠です。そして、ホセア9:15には、神がご自分の民について、「わたしは、もはや彼らを愛さない」と言っている箇所がありますが、同書の後半で、「わたしは……喜んで彼らを愛する」（ホセ14:5〔口語訳14:4〕）と宣言しておられるのを覚えておくことは重要です。ホセア9:15は、神がご自分の民を完全に愛されなくなるという意味ではありません。そうではなく、神との愛の関係における特定の側面や恩恵の条件つきについて言及しているに違いないのです。そして、この関係を継続するためには、神の愛にどのように応答するかが重要です。

「わたしの掟^{おきて}を受け入れ、それを守る人は、わたしを愛する者である。わたしを愛する人は、わたしの父に愛される。わたしもその人を愛して、その人にわたし自身を現す」（ヨハ14:21）。同様に、イエスは弟子たちに、こう明言しておられます。「父御自身が、あなたがたを愛しておられるのである。あなたがたが、わたしを愛し、わたしが神のもとから出て来たことを信じたからである」（同16:27）。

これらやそのほかの聖句は、神との救いの関係の恩恵を維持できるかどうかは、私たちが神の愛を受け入れるかどうかにかかっていることを教えています。繰り返しますが、これは神の愛が永遠になくなることを意味するものではありません。私たちは、太陽が輝くのを止められないものの、陽光からわが身をさえぎることができるように、神の永遠の愛を止めることはできないものの、最終的に神との関係を拒絶し、その結果として、神から与えられるもの、特に永遠の命の約束から自分自身を切り離すことはできるという意味です。

神の愛は永遠であり、常に身に余るものです。しかし、人間はそれを拒むことができます。私たちには、その愛を受け入れたり、拒絶したりする機会がありますが、それは、私たちが何を^{より}も先に、神がご自身の完全な永遠の愛をもって私たちを喜んで愛してくださるからにほかなりません（エレ31：3）。神に対する私たちの愛は、求める前からすでに与えられているものへの応答なのです。

問5 1ヨハネ4：7～20を、特に7節と19節に重点を置いて読んでください。この箇所から神の愛の優先順位について、どんなことがわかりますか。

神の愛が常に最初なのです。もし神が最初に私たちを愛してくださなければ、私たちはお返しに神を愛することができません。神は私たち人間を、愛し、愛される能力を持つものとして創造されましたが、神ご自身がすべての愛の根拠であり、源です。しかし、それを受け入れ、自分の人生に反映させるかどうかは、私たちに選択権があります。この真理は、キリストの「仲間を^{ゆる}さない家来」のたとえ（マタ18：23～35参照）に例示されています。

このたとえでは、家来が王に借りたものを返済することなどありえないことがわかります。マタイ18章によれば、この家来は王に1万タラントンの借りがありました。1タラントンは約6000デナリオンに相当します。そして、1デナリオンは、平均的な労働者が1日働くのに支払われる金額でした（マタ20：2と比較）。つまり、平均的な労働者が1タラントンを得るには、6000日の労働が必要なのです。休日を考慮すると、平均的な労働者は年間300日働き、1年で300デナリオンを稼ぐこととなります。すると、平均的な労働者が1タラントンを返済するのに約20年（ $6000/300=20$ ）かかることになるでしょう。1万タラントンを得るためには、20万年働かなければなりません。つまり、家来はこの借金を返済することなどできません。しかし、王は家来を憐れみ、その莫大な借金を快く赦してやったのです。

しかし、この赦された家来が、仲間の1人の100デナリオンというはるかに小さな借金を赦すことを拒み、その借金のことで彼を牢に入れたとき、王は怒りに駆られ、慈悲深い赦しを取り消しました。その家来は王の愛と赦しを失いました。神の同情と憐れみが尽きることはありませんが、人は神の同情と憐れみの恩恵を最終的に拒絶したり、放棄したりすることさえできるのです。

あなたはイエスによって何を赦され、赦されるために何を要しましたか。

あの家来が王に負債を返せなかったように、私たちも神に借りを返すことはできません。私たちは神の愛を獲得することも、神の愛に値するものになることも決してできないのです。「わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました」(ロマ5:8)。なんとすばらしい愛でしょう。Iヨハネ3:1に記されているように、「御父がどれほどわたしたちを愛してくださるか、考えなさい。それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほど……です」

しかし、私たちができること、なすべきことは、神の愛をできるだけ他者にも反映させることです。私たちがこれほど大きな憐れみと赦しを受けたのであれば、私たちはどれほどの憐れみと赦しを他者に与えるべきでしょうか。あの家来が王の憐れみと赦しを失ったのは、仲間の家来に憐れみと赦しを与えなかったからでした。もし私たちが本当に神を愛しているなら、神の愛を他者に必ず反映させることでしょう。

問6 ヨハネ15:12、Iヨハネ3:16、4:7~12を読んでください。これらの聖句は、神の愛、神に対する私たちの愛、他者への愛の関係について、どんなことを教えていますか。

ヨハネ15:12のすぐあとで、イエスは弟子たちに、「わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である」(ヨハ15:14)と言われました。イエスは彼らに、どんなことをお命じになったのでしょうか。何よりも、イエスは弟子たち(や私たち)に、ご自分が彼らを愛されたように他者を愛しなさいと命じられたのです。ここでもほかの箇所でも、主は私たちに、神を愛し、互いに愛し合いなさいと命じておられます。

要するに、私たちは限らない負債を赦されたのであり、それは決して返済できない負債、十字架でのみ支払われた負債であることを認識しなければなりません。それゆえ、私たちは神を愛し、賛美し、他者に対して愛と恵みをもって生きるべきです。ルカ7:47が教えているように、多く赦された者は多く愛するが、「赦されることの少ない者は、愛することも少ない」のです。私たちの中で、自分がどれほど赦されてきたかを自覚していない人がいるのでしょうか。

神を愛することが、他者を愛することを伴うのであれば、私たちは言葉と行為の両方で神の愛のメッセージを緊急に伝えるべきです。私たちはこの世の日常生活において人々を手助けするとともに、神の愛の管となり、新しい天と地における永遠の命を約束してくださるお方を彼らに示さねばなりません。

参考資料として、『キリストへの道』の「祈りの特権」の章を読んでください。

「どんな望み、喜び、悲しみ、わずらい、恐れもみな、神の前に置きましょう。神は重荷で苦しんだり、疲れたりなさいません。頭の髪の毛でさえ数えられる神は、子どもたちの必要に無関心ではありません。『主は慈しみ深く、憐れみに満ちた方だからです』（ヤコブの手紙5章11節）。愛に満ちた神のみ心は、私たちが悲しみを口に出すことによっても、心を動かされます。心をわずらわすことは何でも神に申し上げましょう。神は諸世界を支え、宇宙のすべてを支配しておられるのですから、神にとって重すぎて負いきれないものはありません。私たちの平和に関わることであれば何でも、小さすぎてお気づきにならないことはありません。私たちのどんなに暗い経験も、暗すぎてお読みに成れないということはありません。また、どんなに難しい問題でも、神には解釈できないということはありません。神の子らのごく小さい者に降りかかる災いも、心を悩ます不安も、喜びの声も、くちびるからほとぼしる真剣な祈りも、天の父はことごとく注意し、深い関心を払っておられるのです。神は、『打ち砕かれた心の人々を癒し／その傷を包んでくださる』（詩編147編3節）。神と各々の魂との関係は、あたかも神がただ一人を見守られるかのように、あたかも神がただ一人のために愛するみ子を与えられたかのように、はっきりとした完全なものです」（『キリストへの道』改訂第三版文庫版142、143ページ）。

話し合いのための質問

- ① 上記の引用文についてじっくり考えてください。そこに、「神と各々の魂との関係は、あたかも神がただ一人を見守られるかのように、あたかも神がただ一人のために愛するみ子を与えられたかのように、はっきりとした完全なものです」とあります。これはあなたにどんな慰めを与えますか。また、神とあなたの親密さやあなたに対する神の配慮を知って、あなたはどのように人生を送るべきですか。どうすればそのすばらしい約束の現実とともに、生きることができるようになるでしょうか。毎日、それを心から信じていることができるかどうか、想像してみてください。
- ② 今週の研究を踏まえて、あなたは詩編 103：17、18 をどのように理解しますか。この箇所は、神の愛がいかに永遠であるかについて、またそれにもかかわらず、神との関係の恩恵が神の愛を私たちが受け入れるかどうかでいかに左右されるかについて、どんなことを明らかにしていますか。
- ③ 神の永遠の愛を知ることで、あなたと神の関係にどんな変化をもたらしますか。他者の悲しみに対する考え方に、どのような影響を与えるでしょうか。